

## ■ 編集後記 ■

🍏 ウェブ版『翻訳研究への招待』5号をお届けします。昨年秋の刊行を予定していましたが、学会誌の編集作業と重なるなどの事情により、かなり遅れてしまいました。読者の方々、そして発行を忍耐強く待っていただいた執筆者の方々にお詫びします。

さて、日本通訳翻訳学会の方針により、翻訳研究分科会は新たに「日本通訳翻訳学会研究プロジェクト」の一部として「翻訳研究育成プロジェクト」に衣替えしました。理事会に提出して承認された活動計画を以下に転載します。

### 🍏 「翻訳研究育成プロジェクト」活動計画（2010年10月～2011年9月）

・日本における翻訳研究をめぐる状況はここ10年で大きく変わった。『翻訳学入門』をはじめとする主要著作の翻訳や、個人研究者による研究書の出版、国際会議の開催など、着実に成果を上げている。しかし、可能性に富み、潜在的な読者層、研究者層が見込まれるにもかかわらず、翻訳研究は特にアカデミーにおいてはまだまだ定着しているとは言いがたい。こうした状況に鑑み、本プロジェクトは、日本における翻訳研究の育成、定着と充実に資するための諸活動を持続的に行うことを目的とする。

・具体的な活動は以下のようなものになるが、当面は裾野の拡大のために幅広い層を対象とするテーマも設定する。

1) ウェブジャーナル『翻訳研究への招待』の継続発行（年2回の発行を目ざす。特に院生に発表の場を提供したい。また英語版（abstracts）も作成し、活動内容を世界に発信する。）

2) 研究会の開催：年3回程度開催する。これには会員以外のゲストを招聘することもある。当面の重点目標として「訳読と翻訳」のテーマを取り上げる。

3) 参加会員は『通訳翻訳研究』や内外のジャーナル、その他の媒体に寄稿したり、内外の会議で発表活動を行うなど、本プロジェクトの主旨に沿った活動を行う。

4) 中長期的活動目標として、「翻訳論アンソロジー現代日本編」、「翻訳論アンソロジー外国編」、「翻訳関連文献集成」などを考える。

🍏 本号では上記方針の4)に関連する論考と資料を掲載していますが、ウェブ版『翻訳研究への招待』はこのような形でプロジェクトと連携しながら継続して発行していきます。研究会の開催予定は学会のウェブサイトでお知らせします。なお、紙媒体として発行した1号～3号を近々このサイトで公開予定ですので、ご期待下さい。

🍏 次号（6号）は5月末の発行を予定しています。この春休みと5月の連休を利用して執筆していただき、多くの論考をお寄せ下さい。投稿をお待ちしています。

2011年2月10日

『翻訳研究への招待』編集委員会